



第44回 支店長のわがまち紹介

茨城県稲敷郡 河内町

都会に意外と近いイナカ ^{すい}穂平線の見える町『かわち』



筑波銀行は地域金融機関として、地域の皆さまとの密接な繋がりを持たせていただいております。「支店長のわがまち紹介」は、筑波銀行の支店長がゆかりのある市町村をご紹介させていただくコーナーです。第44回は茨城県河内町です。龍ヶ崎支店長の鈴木賢次が、河内町町長雑賀正光氏にお話を伺いました。

●河内町が一番と考えていること、自慢できることはどのようなことでしょうか。

【都会に意外と近いイナカ】

河内町は茨城県の最南端にあり、利根川を挟んだ川向こうは千葉県成田市です。日本の空の玄関口である成田国際空港へは、直線で14kmという至近距離にあるため、空を見上げれば空港から離発着する飛行機の悠々とした機体を眺めることができます。本町は「茨城県の中で世界に一番近い町」なのです。

また、以前は交通機関に恵まれていたとは言い難い地域でしたが、首都圏中央連絡自動車道（圏央道）が整備され、さらに圏央道と東関東自動車道が結ばれた今、首都・東京から50km圏内にある本町は、「都会に意外と近いイナカ」として、地理的な優位性を存分に発揮して未来を見つめていきたいと考えています。

【利根川と生きる町】

常陸風土記において、河内町は「流海と鹿の棲む草原であった」と記されており、利根川の水運と河岸の発展で江戸との交流を続けながら変遷を重ねてきました。

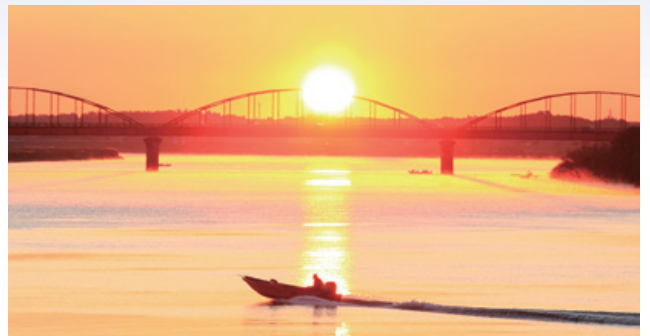
本町は、“坂東太郎”・利根川の氾濫に苦しめられた長い歴史がありますが、その氾濫によって造られた肥沃な平野に集落が築かれ、川と共存する町として現在に至っています。

護岸工事の完成後、氾濫の苦しみは、県内有数の早場米産地として生まれ変わりました。川のもたらした恵みに加え、利根川流域特有の温暖湿潤な気候は豊かな稲穂を育てていきました。

本町は稲作を主体に発展してきたため、かつては農村文化を伝える祭事や祭りも、各集落にありました。

【茨城を代表する稲作地域】

以前、河内地内の利根川流域には、藤蔵河岸や金



利根川の風景

江津河岸などのほか、80あまりの河岸があり、旅人や積み荷で賑わっていました。

本町内で収穫された米や川で採れた魚介類は、水路を使って江戸へと運ばれて行きました。本町が「江戸の台所」と称されていた所以はここに 있습니다。

美しい緑の大地と、悠久の流れをとどめる利根川は、今もお町民に豊かな恵みを与えてくれます。また、突き抜ける青空の中に筑波山が、夕焼けの彼方に富士山を望む田園風景は、今も変わらぬ本町の姿です。

●今後の展望についてお聞かせください。

【小中一貫校が完成し、教育環境が充実】

待望の小中一貫校である「かわち学園」が4月から開校します。少子化により小規模化していく小中学校のあり方を見直し、明日の河内町を担っていく子どもたちに望ましい教育の場を提供しなければならないという使命から、町内にある二つの中学校と三つの小学校を統合しました。

1階のオープンスペースにはケヤキの木をシンボルツリーとして配置し、子ども達の成長を見守っていきます。かわち学園での9年間で、子どもたちが「かわち町に対する誇り」をもち、世界に羽ばたく人材を育成する教育を目指したいと考えています。



4月に開校する「かわち学園」校舎

【中学生の海外体験学習の推進】

次世代を担う中学生を海外（ハワイ州）に派遣し、現地の中学生と直接触れ合うことで、その国の歴史や文化を肌で感じとり、国際感覚を養って欲しいという思いからはじめました。

小規模学校だからこそ、私は日本で他の学校にない特色のある教育の提供を目指し、英語教育、道徳教育に特化したいと考えています。

将来国際社会で活躍できる子どもを育てるには、何よりも英語教育が大切です。そして、日本の良き伝統文化を身に付け、しっかりとコミュニケーションがとれることも大切です。教育はもとより文化、観光など幅広く交流することで広い視野を持った心豊かな大人になってくれたら嬉しいです。



ハワイでの体験学習の様子

【空き校舎等の有効利用】

早場米の生産地として名高い河内町で、大手企業が旧給食センターの施設を活用し、米の6次産業化として、「米ゲル」という新しい加工方法に取り組んでいます。これは、使われなくなった町の施設の再活用として、町が公募したものです。

米ゲルは、国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構で開発された加工技術です。米ゲルの特徴は、米と水分と熱のみで生成することができ低コストであること、油脂を使わないためカロリーオフできることなどが挙げられます。

今後、農家の所得を上げる起爆剤として可能性が高い米ゲルを、町としても様々な機関と連携しながら、新たな視点を盛り込み、町内の生産者のやる気を向上させ、農業の活性化を図っていきたいと考えています。



旧給食センターを有効活した米ゲルの量産工場

同様に、学校の統廃合に伴い旧小学校を利用して、チョウザメの養殖事業に取り組んでいる事業者もいます。これは、事業者の河内町を活性化したい、まちおこしのお手伝いをしたいという思いから始めたことです。町として

も、チョウザメ養殖が新たなまちの産業となり、地域活性化に繋がってくればと期待しています。



河内町町長
雑賀正光氏

龍ヶ崎支店長の
鈴木賢次

【古民家を改修し、情報発信拠点へ】

築100年超の古民家を官民協働で活用し、新たな交流拠点として整備しました。古民家の名前は「長竿亭」で、手打ちそばの店が新たにオープンしました。古民家の入り口付近には、タッチパネル型の観光案内版を設置し、観光客へ町内の名所や景観、イベント情報などを提供し、まち歩き参考にしていただきたいと思います。

さらに、古民家を通して、田舎暮らしに興味がある都会の若者や外国人観光客を呼び込むと同時に、本町を広くPRできる拠点にしていきたいと考えています。



長竿亭の外観

●筑波銀行に期待することをお聞かせください。

銀行は社会的な責任を担っており、経営者の先見性を見定め、地域の産業を育てる使命があると考えています。金融は地域を回す車の片輪です。地域を豊かにしていくために、銀行が持つ情報やノウハウを地域に活かしてほしいと願っています。これは、銀行にしかできないことです。これからも協力しながら、河内町の発展に力を貸していただきたいと考えています。